

目標(案)の集約

目標	宣言と解説	変更方針
森・川・海！豊かな自然と伝統文化の悠久の流れに生きるししゃも伝説	<宣言> 豊かな自然環境の保全と活用	「環境（水環境・生態系・景観）」＋「観光（観光資源・観光戦略）」
	<p>鶴川は全国でも有数の清流で、その流域には多種多様な動植物が生息し、四季折々の景観を呈しています。特に、鶴川河口には人工干潟があり、シギ、チドリなどの渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしています。</p> <p>このような多様な生き物が生息できる川でありつづけるように森・川・海を一体で人の手により保全し、生き物と触れあう感動を子供達へ伝えていきます。</p> <p>また、鶴川の魅力を広く全国に発信し、自然体験を通して保全の輪を広げます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然を将来に残していくためには、水環境、生態系、景観のいずれも重要な要素であり、保全していく必要がある。 観光戦略を進めるためには、観光資源である鶴川の自然環境の保全が必須である。
	<宣言> 鶴川の自然・歴史・文化の学習と体験	教育＋アイヌ文化＋景観
	<p>鶴川には、渡舟場、流送、開拓の歴史や、アイヌ語にまつわる地名やシシャモカムイノミといった川と密接にかかわった鶴川特有のアイヌ文化、多様な生態系を有する豊かな自然など、子供達の学習素材が豊富にあります。</p> <p>大人と子供達がふれあいながらこのような素材を体験することで、アイヌ民族の自然と人間は一体であるという精神を実感し、自然、歴史、文化の保全や伝承していくための良い経験となります。</p> <p>その経験は将来の鶴川を形成していくために、かけがいのないものになるのではないかと考えます。</p> <p>そこで、シシャモ伝説が生まれた鶴川の柳の木の下で、子供達が川に遊び、自然、文化、歴史などを川から学ぶ「川育」の推進に努めていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鶴川には身近な学習素材（豊かな自然、伝統文化）が多く、子供たちの教育にも、文化伝承にも大切である。 鶴川の伝統的な民話である「ししゃも伝説」は堤防のヤナギなど鶴川独自の「景観（環）」が関係しているためキーワードとして加えた。
<宣言> 鶴川の恩恵と活用	観光資源＋観光戦略＋水環境	
<p>鶴川はシシャモをはじめとする魚介類、田圃を潤すことによる米や野菜を生み出し、鶴川特有の食文化や産業を創出しています。</p> <p>私達は鶴川からの恩恵に感謝するとともに、鶴川流域の自然、食材、文化を前面に押し出し、体験をとおり、子供からお年寄りまで鶴川のすばらしさを実感できるように努めます。</p> <p>また、鶴川の魅力を流域内外に伝えることのできるイベントや人材の育成に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「観光」を考える上で、鶴川の観光資源とは何かを認識し、観光戦略として、どのように利用し、どのように内外に伝えていくかが重要である。 鶴川の観光資源は「川からの恩恵」を受けたものであるという観点から水環境を加えた。 	

目標	宣言と解説	変更方針
ガッチリ防災、安全・安心の鶴川へ手と手をつないで	<宣言> 防災情報が行き届く鶴川	情報の伝達
	<p>関係機関は災害の予測や状況を共有して、適切な判断を行い、正確な情報を住民へ迅速に提供できる体制をつくりまします。</p> <p>住民への伝達は防災行政無線などのあらゆる情報伝達手段を用いて、全住民へ伝達できるように努めます。</p> <p>地域では自主防災組織を結成して、地域ネットワークを構築し、日頃の防災意識の向上や高齢者などの要支援者の把握と地域連携の体制を整えます。</p> <p>災害時には自主防災組織が中心となって、関係機関と地域の情報を共有するための懸け橋となるように努めます。</p>	
	<宣言> 災害を知りともに助け合う鶴川	避難＋防災対策
	<p>過去の災害事例の教訓を活かし地域における危険箇所、避難経路、避難場所の把握といった地域独自のハザードマップの整備や防災訓練や教育を実施し、日頃から防災体制の構築に努めます</p> <p>また、近年集中豪雨が多発し、災害のリスクが増大していることを踏まえ、災害の発生が予想される場合には、自主防災組織が中心となって地域内で共に助け合いながら自主的に避難するなど、人命が最優先という意識をもって行動します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に避難するには、事前の防災対策（ハザードマップ、防災訓練、防災教育）が必要である。犠牲者を出さないためには「避難」と「防災対策」の両方が必要である。
<宣言> 災害に強いふるさとの川づくり	防災対策＋水環境＋川づくり方針	
<p>過去の災害事例や今後多発する集中豪雨から地域の安全を確保するため、河川整備を必要としています。</p> <p>鶴川には清流の恵みを得て、様々な生物が生息し、シシャモといった地域を代表する特産品があることから、良好な自然環境への配慮が必要です。</p> <p>今後の川づくりを行うに当たっては、洪水被害を軽減することはもとより、ふるさとの川を実感でき、子供、恋人、お年寄りが手と手をつないで歩ける安心と癒し溢れる川づくり、人間と自然が共生できることを目指し、人の川への想いを未来までつなげる川づくりに行政と住民が手を取り合って取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「川づくりの方針」として、防災対策をベースに、災害に強い川づくりと、自然と共生した川づくりについて記述。 鶴川の川づくりには「地域安全の確保」と同時に「自然環境への配慮」が必要であることから、鶴川の水環境保全についての記述を載せた。 プロジェクトの目指す「川づくり」とは「ふるさとの川」を実感でき、「人と自然の共生」を目指していることを詳細に記述。 	